

# 大文字

新城新蔵

京都東山に盆の十六日を期して大文字を点火するのは頗る壯觀である。俗説には大徳寺の休和尚が始めたという説もあるが、或はそうかも知れず、面白い思いつきである。動もすれば区々たる細節に没頭し易き都人に、これによりて少くとも年に一回は氣宇をして豁大ならしむる機会を与えるもので、所謂大の徳の一端を發揮して居るものであらう。

大文字山の麓に近く大学があるが、大学とは如何なる意味か。大人の学ということか、大なる学問ということか、大いに学ぶ所ということか。色々の意味にも取れるであらうが、私はこれを以て大を学ぶ所と解釈したい。

一体此世の中で最も大なるものは何であらうか。一という字と、大という字とを組合せて、天という文字を作つたというので、唯一の大なるものは即ち天で、天下にこれより大なるものはない。従つて天の模様即ち天文は畢竟するに天の文章で、これこそ真に唯一の大なる文章といわなければならぬ。唯この最大の文章は所謂天に口なし人をして言わしむるので、これを読破することは容易でない。希臘の神話や、支那の牽牛織女物語の如きは、いずれも其一部を読んだものではあるが、全幅に及ばざること甚だ遠い。

天に輝く星は、我が太陽系に属する少数のものを除く外は、悉く皆我が太陽と同格のもので、其総数は凡そ百億程もあるであらうといわれて居る。要するに満天の星の眺めは、百億の太陽を包有せる大陳列場である。我々は日々この大陳列場に入出して、大小老若雑多の太陽を觀測し、互に比較することによりて、我が太陽の本質を了解

する資料とすることが出来る。思うに百億の太陽各個も、百億総体の大組織も、要するに物質に内在する相互引力の作用によりて出現するに至ったものであることは疑もないが、天の大文章の真意を了解せんがためには、更に其来由を明かにしなければならぬ。

翻つて脚下を顧みれば所謂水成岩の地層は新旧雜然として眼前に展開して居るが、これは畢竟太古以来の地變のために幾多の顛覆を経たためなので、概して言えば、古き地層は下にあり、新らしきものは上にある筈である。若し順序を正して整理すれば、地層の厚さの全体は約百料に達すべく、其堆積生成に要したる年代は約十五億年程度のものであらうと言われて居る。

最古の地層の時代は我が地球上に未だ生物の無かつた時代であるが、最下等の生物が発生し始めてからも今日に至るまでに約幾億年という年所を経過して居るので、是等の各時代の生物の遺骸はそれぞれの時代に相当する地層の中に含まれて居り、我々はこれによりて仔細に生物進化の道程を追跡することが出来る。要するに厚さ百料に達する水成岩の全体は地球と生物との進化の記録で、実に十五億年の長き年代を要して記録されたものである。

仰ぎ見る大空は、百億の太陽によりて織り成されたる最大唯一の大文章であり、脚下に横われる大地は、十五億年の記録を包蔵せる厚さ百料の一大冊子である。しかもこれを如何様に読むかは、人の問題であり、文化の問題であり、大学当面の問題である。

月を見よとて指した其指に見とれて月を忘れてはならない。天地の大を見よと挙示した大文字に見とれて真の大なるものを閑却してはならない。

(大正十五年十月「文藝春秋」)

- 『宇宙大観』（一九二七年、岩波書店）所収。
- PDF化するにあたり、旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは新仮名遣いに改めた。
- 読みやすさのために、適宜振り仮名をつけた。
- PDF化には $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}_{2\epsilon}$ でタイプセッティングを行い、 $\text{dvi}2\text{pdf}^{\text{m}}\text{x}$ を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。